



みらいっうしん

7月号

2024年7月1日
田園調布学園大学
みらいこども園
園長 勝浦芳子

夏の季節を楽しんで

年に一度の七夕の神話にあやかっ、星に願いをこめるロマンチックな季節がやってきました。今年も、新城小学校の笹を分けていただき、笹に願い事を書いた短冊をつけたり、飾り物を作ったりして、七夕の行事を子ども達と一緒に楽しみます。子ども達と保護者の皆様の願いが天に届くといいですね。

さて、今年は、梅雨に入るのが遅く、毎日のように30度近くの暑さが続いています。その影響なのか、体調を崩すお子さんも増え心配しておりますが、ほとんどのお子さんは、「暑さなんか関係ないよ!」と言っているかのように元気いっぱい園生活を楽しんでいます。また、念願のプール遊びが始まり、乳児組さんは、中庭に水遊びの道具を出し、水の感触を味わいながら楽しそうに遊んでいます。幼児組は、園庭に大きなプールを設置したことで、「いつかないつかな?」と心待ちにしていました。「今日からプールが始まりますよー」と声をかけると、日頃のお着替えよりも早く水着に着替え、スタンバイOK!体操をして、シャワーを浴びて、いざプールサイドに集まると、ワクワク、ドキドキ感は、最高潮に膨れ上がり、子ども達は、今か今かと、保育者の話を集中して聞いていました。プール開きの儀式として、子どもの安全を祈願するお塩のお清めも、真剣な表情で見つめている姿があり、人は興味関心があるものには、こんなにも集中するものなのだなど痛感しました。「それではどうぞ」という合図で、プールに入りましたが、想像以上にお水が冷たく感じたようで、「ワ～冷たい」とこどもでも感情があふれ出し、友達と笑顔で共感していました。水をかけたり、泳いだり、ワニさん歩きをしたり、ペットボトルを使ったり、それぞれ遊び方は違いますが、水の事故が起こらないように、安全で楽しくプールで遊べるように工夫していきたいと考えています。暑い日には、プールに飛び込みたい気分になりますが、熱中症が起こる危険な状況の場合は、晴れていても、プールに入れない時もあります。こども園では、園庭に、黒球熱中症指数計(熱中アラーム)を設置していますが、子ども達も、にじ組になると「ピーピー鳴ってるよ。」「お部屋に入らないとダメだよ。病気になっちゃうよ。」などと声を掛け合っている姿も見られるようになり、子ども達自ら命の大切さを少しずつではありますが、感じとってくれていることは、大変うれしく思います。

その他の遊びに目を向けると、砂場遊び、水遊び、泥んこ遊び、泥団子作り、虫取り、花探し、カエル探し、野菜づくりなど、興味を持つものは人さまざまですが、身近な自然に親しみながら、好みの道具を使って満足するまで遊びを楽しんでいます。この自然体験から生まれる感動は、とても大切で、命の気配に触れることで、五官(目、耳、鼻、舌、皮膚)が生き生きと活動し始め、五感(見る、聞く、嗅ぐ、味わう、触れる)も、研ぎ澄まされていきます。今後も、自然に大いに触れられる遊びが展開していけるように環境を整えていきたいと思ひます。暑さが厳しくなると、脳の働きが悪くなりイライラすることで、気持ちのコントロールも難しくなってきます。お子さんも、保護者の皆様もリフレッシュすることを見つけて、ご自愛ください。

わーい! プールだ～



チョウチョさんバイバ～イ

